

第2回 香川県海岸保全基本計画変更 検討委員会

(第1回検討委員会における意見と対応)

令和8年3月18日(水)

香川県

第1回検討委員会における意見と対応(1)



	意見	対応	備考
将来外力の推算について	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 2℃上昇を基本とする方針が良いが、4℃上昇シナリオについても起こり得る事象であるということを留意しておくべきである。 ▶ 津波計算に関して、最終的には香川県のすべての海岸を対象とするという認識でよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「3-1. 海岸の防護の目標」に、将来の気候変動による影響の予測には不確実性があることから、今後、モニタリング結果や今後の知見等を踏まえて適宜見直しを検討することを記載します。 ▶ 志度湾(現行計画のL1津波水位が最も高い海岸)でH26に実施した津波シミュレーションの初期水位を39cm高く設定して再度シミュレーションを行い、津波水位の上昇量が概ね39cm未満であることを確認しました。これを踏まえ、本計画では将来の津波水位は現行計画の津波水位に海面上昇量を加算することとします。 ▶ 次年度の「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」の見直しにおいて、全沿岸を対象としたシミュレーションを実施予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 説明資料「海岸保全基本計画書変更概要」(以下、変更概要) p.7参照 ▶ 変更概要 p.7参照
海岸の整備方針について	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 海面水位が上がると砂浜の幅が単純に狭まるだけでなく、形状も変化すると一般的に言われている。予測を重視した順応的砂浜管理の考え方もある。気候変動の影響による外力の長期変化量に加え、砂浜への影響も念頭に置いて全体の検討を進めていただきたい。 ▶ 南海トラフの地震が発生すれば海岸の状況は一変するため、気候変動への対応は、発災後の対応になるかもしれないが、砂浜への影響も留意していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 砂浜減少の対策については、前回の計画変更から10年経過していることから、海岸の現況を確認し、整理を行いました。全体的な汀線の後退量は概ね10m以内となっており、比較的汀線は安定していると考えられる結果となりました。これらの結果も参考にした上で、「3-1. 海岸の防護の目標」「3-2. 防護に関する施策」に、侵食の進行している海岸では、海岸地形の変化や将来の海面上昇量を踏まえつつ、背後地への影響を考慮しながら、適切な汀線の管理を図ることを基本とする旨記載します。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 参考資料「5. 砂浜海岸の現状」 p.80～p.83参照 ▶ 変更概要のp.7、p.8参照

第1回検討委員会における意見と対応(2)



	意見	対応	備考
<p>海岸の整備方針について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 長期的な視点での土地利用や人口の変化も考慮し、都市計画と合わせて考えていただきたい。また、砂浜減少の対策も考えていけば環境との調和にもつながる。 ▶ 香川県は元々砂浜が少なく、海水浴等の海遊びができる場所も少なくなっている。人との関わりが失われると海は死んでしまう。瀬戸内海の海を豊かにするために、海と人との関わりという点についても留意していただきたい。 ▶ 将来、39cm～74cmも海面が上昇すれば常時浸水する施設も出てくると思われる。砂浜の侵食が進行している実感もある。航路浚渫も砂浜侵食の一因である。瀬戸内海の海砂は1万年かけて堆積したと言われており、我々の時代で海砂を取り戻すことはできないが、温暖化は我々で防がなければならない。 ▶ 単純に堤防の嵩上げをするだけでなく、背後地地盤も含めた整備も想定しておくことも重要。そのためには地元の方の意見をヒアリングする等の取り組みも必要ではないかと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 砂浜等の自然海岸は、景観や生態系の保全のみならず、人々が海と触れ合う貴重な空間であることから、「3-4. 利用に関する施策」に、長期的な人口動向や土地利用の変化を踏まえ、地域住民や来訪者が海に親しむことができる海岸空間の確保に努めることを記載します。また、砂浜の侵食につきましては、「3-2. 防護に関する施策」に、気候変動の影響に伴う侵食については将来の外力変化の予測を踏まえ、モニタリングを実施することを記載します。 ▶ 海岸保全基本計画の変更を行う上で、パブリックコメントの実施、市町関係者の意見聴取などを予定しており、それらの中でいただいた意見は基本計画に反映することを予定しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更概要 p.9、p.10参照

第1回検討委員会における意見と対応(3)



	意見	対応	備考
防護・減災、環境・利用との調和について	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 最近、海藻によって海水温が低下することが数値として具体的に示された。海水温の上昇を抑制するという新たな機能を踏まえた評価についても、海岸保全基本計画の中に位置付ける必要があると感じている。 ▶ 瀬戸内海は特に海岸線、島嶼部が観光資源となっており、瀬戸内国際芸術祭が開催されるなど香川県の重要な財産となっている。海面上昇や南海トラフ地震への対策は優先的に実施していく必要がある一方、観光資源の保全との兼ね合いを見極めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 豊かな海を形成するために、藻場や水生生物に配慮した工法等環境に配慮した整備を推進していくことは重要であると認識しています。そのため、「3-3. 環境に関する施策」に、環境に配慮した施設の整備に努めることについて記載します。 ▶ 香川県の重要な財産を今後とも守っていくことは重要であり、「3-4. 利用に関する施策」に、今後、施設整備を進める中で、周辺景観との調和及び観光資源等の保全に十分配慮することを記載します。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更概要 p.9参照 ▶ 変更概要 p.10参照

第1回検討委員会における意見と対応(4)



	意見	対応	備考
海岸保全基本計画変更の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 温暖化により具体的にどのような状況の変化が起こるかについて、過去の経験を元に考えておく必要がある。地元の人、沿岸部に近い人、海岸から離れた方、観光の面、漁業の面からいろいろなご意見を反映することも重要。過去のアンケート等を参考にするのもよい。 ▶ 地元の方の歴史的な証言なども重要な情報である。 ▶ 県民の生活や周辺環境が一変することに対してどのような対策をとれるかを検討していきたい。 ▶ 気候変動の予測に不確実性があることは間違いない。必ずしも遑って検討する必要はないが、随時示される最新の知見を確認しながら進めていただきたい。 ▶ 防護の重要性は揺るがないが、背後地域、環境、利用との関係を踏まえて検討を進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 海岸保全基本計画の変更を行う上で、パブリックコメントの実施、市町関係者の意見聴取などを予定しており、それらの中でいただいた意見は基本計画に反映することを予定しています。 ▶ 「3-1. 海岸の防護の目標」に、将来の気候変動による影響の予測には不確実性が伴うことから、将来の気候変動のモニタリング結果や今後の気候変動に関する知見等を踏まえて、適宜、見直しを検討することを記載します。 ▶ 現行計画と同様に、「背後地の重要度」を考慮し、防護が必要な海岸の「海岸タイプ」を環境、利用の視点から判断した上で、整備を進めていくことを記載します。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更概要 p.7参照 ▶ 変更概要 p.13、p.14参照